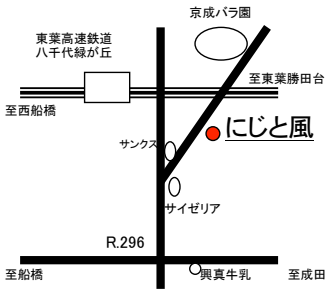
平成25年1月３１日発行　　第81号

にじと風だより

発　行　特定非営利活動法人にじと風福祉会
〒276-0046　千葉県八千代市大和田新田453-126
TEL 047-480-0801　FAX 047-480-0807
発行人　吉野眞里子/yosino@asahi-net.email.ne.jp



あけましておめでとうございます

　松が取れ、年の初めのすがすがしさは少し薄れて来ましたが、庭の万両の赤い実が先日の真っ白な雪に映えて冬の季節の嬉しさを感じます。
今年も昨年に変わらず、ご指導ご鞭撻戴けますようお願いいたします。
にじと風福祉会職員一同さらに障害児者と家族が住み慣れた地域の中で豊かに暮らし続けられるよう共に手を携えて勉強し、現実のものとして参ります。
　なんだか松の内のお正月気分に浸っている間に早や節分明日は立春になってしまい庭には水仙の蕾がちらほら．．．。
今年１年きっとこんな調子で過ごしてしまいそうな。気を引き締めてさらにより充実した楽しい時間がこどもたちと過ごせるよう努力してまいります。
昨年11月より千葉県内にある放課後休日活動を事業として実施している団体、事業所の連絡会千葉放課後連の事務局をさせて頂くことになりました。
　改めてこどもたちの放課後や休日を豊かに過ごすことの大切さを考えます。
教育でもなく療育でもなくまた保護者の就労により家で一人では過ごせないお子さんをお預かりするためでもなく子供たちと豊かな時間を過ごせるように。お友達といっぱい遊び、職員やボランテイアという大人の中でぶつかり合いながら自分らしさを発見し大好きなこと嫌いなことを見つけ、更には大人になった時フト思い出す場所時間であってほしいと願い日々活動しています。
もちろん安全に安心してできる限り毎日という簡単な言葉さえとても労力と経費とが必要です。
安全は毎朝夜の室内消毒から、おむつの交換に係る薬剤、研修の受講、帰所時の検温、運転者講習会の受講。出来る限り毎日来て遊ぶためには、学校へのお迎えは必須ですが、遊びがおわった後にもご自宅まで送ったりお迎えに来て下さるまでお預かりもします。これはひとえに、お母様やお父様が就労しているいないということでせっかくの遊べる機会に差を生じさせ無いためです。でも最近は就労していらっしゃる保護者の割合が多くなってきています。
時代の流なのでしょうか。一面では障害児が家族であっても家族だけで抱え込まなくても社会生活が送れるようになったと喜ばしい事ではありますが、１軒の家計を支えるのに２名分の所得が必要となったのではと日本の経済を考えてしまいます。
普段はカリキュラムはありません。「ただいま」と帰所してきたら、一目散に宿題をする子、昨日約束していた遊びに職員を誘い遊ぶ子、今日のおやつを確認する子、お気に入りの場所にお気に入りの本を持って一目散の子様々です。職員はそれぞれのお子さんとそれぞれに合わせて遊びます。何年か経つうちにお友達ができてその子のためなら大好きなおやつをゆずる子、わがままいうなと注意する子、ふと見ると体調がすぐれない子のそばに寄り添っている子、台所で職員の代わりに洗い物をしている子、帰りの会の司会当番を調整している子。にじと風で子供たちと共有できる時間は私たち大人にとってもたからものです。
この宝ものの時間を共有できるように様々な専門の方から研修を受けさせていただいています。摂食の指導医療的指導、それぞれのお子様にある障害を理解し間違った事をしてしまわないようにまた少しでもより適切な対応が誰にでもだれでもできるようにしていきたいからです。
職員１人1人が独りよがりにならないように、又１人で様々な事を背負込んでしまわないように、大忙しの午前中に会議をします。また事業所全体としても独善に陥らないよう外部の研修に多く参加し常にもう少し大きな視野で仕事ができるようにと願っています。
今年もご指導ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

「ひよこ宣言」

施設「にじと風」の開所式の際に、「ひよこ宣言」をつくった当事者たち、保護者、関係者の思いを生命ある私たちが継続していきたいと思います。
(1999.7.18)

1. ずうっとこの町で暮したい
　友だちと一緒にいろんなことをしたい
　自分のことは自分で決めたい、自分でやりたい
　でも、どうしても出来ないことは手伝って下さい

2. 今日ここに私たちの新しい場所が出来ました
　私たちは、ここに閉じこもることなく
　ここを基地として
　新しい一歩を踏み出すことを宣言します